

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 : 観光部 観光総務課

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の收受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R5	R6	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A			開設から30年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。 また、独自の「熱中症対応手順書」を作成し運用を開始しており、重大な事故の防止に取り組んでいる。
2 施設の利用状況	B	B			新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事やイベント等が通常どおり開催される中で、集客力の大きいコンサートが5件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の利用人数は令和5年度実績を上回り、利用拡大のための取組が実績につながっている。 今後も引き続き関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などにより、施設利用のさらなる増加に向けた取組が求められる。
3 成果目標及びその実績	C	C			数値目標について、6つのうち5つの項目で目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。 大型コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組成果が現れてきていると評価できるが、施設利用人数について令和5年度実績から約30%増加しているものの目標達成には至っておらず、成果目標達成に向けて、引き続き種々の取組を進めていく必要がある。

※「評価の項目」の県の評価 : 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>○開設から30年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。また、独自の「熱中症対応手順書」を作成し運用を開始しており、重大な事故の防止に取り組んでいる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事やイベント等が通常どおり開催される中で、集客力の大きいコンサートが5件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の利用人数は令和5年度実績を上回り、利用拡大のための取組が実績につながっている。</p> <p>○数値目標について、6つのうち5つの項目で目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。施設利用人数は令和5年度実績から約30%増加したものの、目標達成には至っていない。</p> <p>○コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組が一定成果として現れてきている。成果目標達成に向けて、今後も関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などを通じて、施設のさらなる利用促進を引き続き着実に進めていく必要がある。</p>
--------	---

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」の作成

令和6年の夏は、観測史上でも屈指の酷暑となる中、サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、7月22日から運用を開始した。暑さ指数(WBGT)を熱中症指標計にて計測して、ご利用者との確認の場を設け、場合によっては冷房設備の利用を促し、その対応を記録保管するなど、これまでより一歩進んだ取り組みを行った。

■開館30周年の情報発信

5月23日、サンアリーナが開館30周年を迎えたことを受け、「おかげさまで開館30周年」のロゴを作成し、正面玄関設置のデジタルサイネージ、ホームページ、毎月発行の独自広報紙「かわら版」に掲載し、情報発信を行った。

■防災対策の強化

「南海トラフ地震」の発生確率の高まりを受け、令和4年より施設内に施設職員用の防災備蓄庫の整備を進めてきたが、令和7年3月に完成した。施設職員が安心して働ける職場環境を構築するとともに、サンアリーナは「三重県広域受援計画」において重要な役割を担っていることから、施設の防災力の強化を図った。

■広報及び利用促進活動

主に次の広報活動を通して施設の利用促進を図った。

・施設独自の月刊広報誌「サンアリーナかわら版」の発行(発行部数 約6,000部/月)

・伊勢地域みっちゃく生活情報誌「イセラ」での情報発信(発行部数 約65,000部/月)

毎月、ボルダリングDAYの開催案内を掲載

・行政が発行している広報紙での情報発信

自主事業開催のお知らせを、「広報いせ」16回、「広報まつさか」「広報わたらい」各1回掲載。

・施設ホームページにおける情報発信

計58回の更新を行い積極的に情報発信を行った。

・大会・興行関係者への誘致活動

令和6年度は、4月に「THE RAMPAGE」、5月に「EXILE THE SECOND」、6月に「水樹奈々」、10月には「UVERworld」、11月には「ゆず」が各2日間、計10日間コンサートが開催された。コンサート開催時には、主催者役員が管理事務所を訪れ、コンサートの近況についての意見交換を行った。

■自主事業の実施

計35件、延べ133回の自主事業を開催し、延べ7,698名の来館者をお迎えした。地元企業や各関係団体などの協力をいただきながら、地域の皆様へスポーツ教室やカルチャー講座に参加して頂く機会を提供するとともに、施設利用料の一部を施設側にて負担し、運営の協力をさせていただいている「サンアリーナカップ」も開催し、スポーツ競技の普及・振興に寄与した。

■地域活性化とスポーツツーリズムに関して

・5回のコンサート開催を通じて、地域活性化(宿泊、交通、観光、土産)に大きく寄与した。最近では、アーティストや観客がSNSを通してタイムリーに情報発信する機会が多く見られ、特にアーティストが発信する情報は、地域経済へ大きな影響を与えている。

・過去9回にわたり開催してきた「トレイルランニングレース」を第10回目となる令和6年度は、ファイナル大会として実施した。本レースへのエントリーは、県内はもとより、北海道から九州まで全国各地からいただいていることから、本レースを通して三重県の魅力を県内外の方々に発信することが出来た。また本レースは実行委員会方式を採用し、地域の様々な分野の方に参加いただくことで、周辺地域を巻き込みながら地域のつながりを広げていくことができた。

■省エネへの取組

照明設備による電力消費量の一層の削減を図るため、「三重県営サンアリーナ 全館完全LED化計画」を令和6年度に作成し次の取組を行う。

・2階サブアリーナ(観客席含む)・会議棟に設置されている誘導灯23台のうち、蛍光灯使用機器である14台についてLED機器へ更新を行った。

・メインアリーナ3階の以下の照明器具を更新。3階回廊ロビー(A、C、E、G)、3階回廊バリアフリートイレ、トイレ前ダウンライト(12箇所)、ペテストリアンデッキ(C、E、G)、倉庫(5室)、機械室(10室)、キャットウォークへの階段(C、G)、非常灯(14台)、非常灯(29球)

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■ 日常の設備運転に関して

職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に迅速に対応した。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。

■ 環境整備事業に関して

環境整備事業は、下記9件の事業について計画的に実施し、施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 漏水修繕工事(レセプション室、倉庫2)
- ・第2回環境整備事業 レセプション室音響改修
- ・第3回環境整備事業 レセプション室・国際会議室バトン更新
- ・第4回環境整備事業 中央監視装置サーバー更新
- ・第5回環境整備事業 サブアリーナ天井スピーカー更新
- ・第6回環境整備事業 電気設備更新工事
- ・第7回環境整備事業 厨房機器更新工事
- ・第8回環境整備事業 屋外排水管修繕工事
- ・第9回環境整備事業 体操競技器具更新

③県施策への配慮に関する業務

■ 車椅子対応センサー式冷水機設置後の利用状況

令和4年度第3回環境整備事業にて更新いただいた車いす対応センサー式冷水機(ウォータークーラー)4台におけるマイボトル給水機能の利用状況及びCO2(二酸化炭素)の削減効果については下記の通りとなった。

設置場所	給水回数(1回あたり500ml)
1階サブアリーナ トレーニング室前	3, 221回
2階サブアリーナ 観客席前	926回
3階メインアリーナ A入口ロビー	2, 455回
4階メインアリーナ A自販機横	1, 067回
合計	7, 669回

※一般的な500mlペットボトルの製造・廃棄・リサイクルにかかるCO2(二酸化炭素)排出量は、1本あたり119gであるため、119g×7,669本=912, 611gのCO2(二酸化炭素)削減につながった。

【引用先:環境省/リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について】

本件は、熱中症への対応策としてはもちろんのこと、県が推進するSDGsへの取組にも貢献できたと考える。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

■ 令和6年度、情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■ 周辺交通・駐車場対応

コンサートが5回開催され、周辺交通・駐車場対応について心配されたが、以前から継続しているホームページ等での公共交通機関のご利用のお願いにより、駐車場が溢れることもなく、地域住民に迷惑になるような事象もなく終了した。

■ 人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

- ① 伊勢税務署主催「給与支払者向け定額減税説明会」総務グループ2名(5月)
- ② SMBCコンサルティング主催「人事労務担当者が知っておくべき基礎」総務グループ1名(7月)
- ③ SMBCコンサルティング主催「法人税の基礎知識と実務ポイント」総務グループ1名(2月)
- ④ 日本年金機構、三重県社会保険協会主催「令和6年度制度説明会」総務グループ2名(2月)

(2)施設の利用状況

	【平均稼働率】	(6年度実績)	(目標)	(5年度実績)	【利用人数】	(6年度実績)	(目標)	(5年度実績)
メインアリーナ	54.3%	60.0%	57.2%	アリーナ	163,618人	-	122,457人	
サブアリーナ	67.6%	70.0%	69.0%	会議室等	15,793人	-	14,163人	
会議室等	19.2%	20.0%	18.8%	トレーニング室	4,264人	-	4,375人	
				フィットネス室	2,499人	-	3,165人	
				合計	186,174人	300,000人	144,160人	

2 利用料金の収入の実績

	6年度実績	6年度目標	対目標比	5年度実績	対前年比
利用料金収入	90,438,592円	80,300,000円	112.6%	82,319,386円	109.9%
※利用料金減免等の内訳	割引金額 3,059,596円	減免金額 1,803,940円	特別割引金額 234,120円	特別減免金額 2,126,520円	合計 7,224,176円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R6年度	R5年度		R6年度	R5年度
指定管理料	206,721,000	210,712,000	人件費	71,606,333	68,515,259
利用料金収入	90,438,592	82,319,386	光熱水費	58,898,089	55,422,201
自主事業収入	19,562,241	14,761,846	その他一般管理費	149,555,994	135,718,385
営業外収入	8,767,090	8,646,005	自主事業経費	19,786,071	16,974,394
特別利益	0	174,209	消費税	9,433,580	10,338,341
合計 (a)	325,488,923	316,613,446	合計 (b)	309,280,067	286,968,580
収支差額 (a)-(b)	16,208,856	29,644,866			

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	7,224,176	7,778,590
---------	-----------	-----------

4 成果目標とその実績

【数値目標】	目標値	成果・実績	備考(参考数値)
メインアリーナ平均稼働率	60.0%	54.3%	令和5年度 57.2% 令和4年度 53.5% 令和3年度 45.1%
サブアリーナ平均稼働率	70.0%	67.6%	令和5年度 69.0% 令和4年度 66.3% 令和3年度 62.3%
会議室等平均稼働率	20.0%	19.2%	令和5年度 18.8% 令和4年度 14.0% 令和3年度 11.0%
自主事業イベント件数	30件	35件	・スポット型32件/47回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等) ・通年型3件/86回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、ボルダリングDAY)
全館年間利用件数	500件	483件	令和5年度 494件 令和4年度 510件 令和3年度 387件
アリーナ利用人数	—	163,618人	令和5年度 122,457人 令和4年度 106,616人 令和3年度 51,393人
会議室等利用人数	—	15,793人	令和5年度 14,163人 令和4年度 14,960人 令和3年度 10,027人
トレーニング室利用人数	—	4,264人	令和5年度 4,375人 令和4年度 5,209人 令和3年度 5,384人
フィットネス室利用人数	—	2,499人	令和5年度 3,165人 令和4年度 4,078人 令和3年度 4,101人
サンアリーナ利用人数合計	300,000人	186,174人	令和5年度 144,160人 令和4年度 130,863人 令和3年度 70,905人
今後の取組方針	<p>■三重県営サンアリーナは建設後30年、当社が指定管理者として管理させていただいてから20年が経過し、その間県内最大級の多目的施設として、文化・スポーツ・観光の多様な場を提供してきた。しかしながら、イベント需要の多様化や安全・快適性への期待の高まり、施設設備の経年に伴う対応課題が顕在化してきている。昨今の暑熱対策により、幼稚園行事などの室内開催への移行や、スポーツ団体の7月・8月の公式戦見合わせなど、大会環境も大きく変わってきている。そのため空調設備が完備された大型施設である三重県営サンアリーナの新たな需要を探っていく。</p> <p>■来場者数をはじめ収益面でも重要視する大型コンサートやスポーツ系、エンターテインメント系イベント等の興行会社に対し、直接提案活動の取り組みをこれからも継続して行い、運営協力や地域の情報提供や宿泊先仲介等、主催者にとっても開催メリットのある環境づくりを行いながら、積極的な誘致を行う。</p> <p>■サンアリーナは三重県観光部が所管していることから、多くの来場者を迎えることができる大型施設として、県内外から多くの方を集客し、地域経済への波及効果を期待されている。この期待に応えるため、これまで以上に地域の観光団体や交通機関、宿泊・飲食業の企業とも連携し、受け入れ体制を構築していく。</p> <p>■自主事業においても、暑い時期の屋外イベントの開催を控え、室内イベントは冷房を使用して開催するなど、参加者の健康に留意しながら開催していく。平成24年から10回開催し、令和6年度で終了した「伊勢の森トレイルランニングレース」は、大きな事故もなく無事に終えることができた。これに代わるものとして、令和6年度プレ大会として開催した「トレイルウォーキング」では、約100人の参加があり、関東や九州からシニア層の参加が多く見られた。令和7年度以降もスポーツツーリズムイベントとして、開催していく。</p> <p>■令和6年度にサンアリーナ独自の「熱中症対策手順書」を作成し、運用している。今後も同手順書に基づき、熱中症警戒アラート発令の情報提供や暑さ指数(WBGT)を熱中症指標計にて、リアルタイムで測定して、お伝えし、空調利用の積極的な推奨など、これまでより一歩進んだ熱中症対策の取り組みを行う。</p> <p>■今後も引き続きサンアリーナを運営管理をするにあたり、日常の監視、点検、整備を確実に実行し、不良個所などの早期発見、早期修繕を実践することで、貸館に支障をきたさないよう努め、利用者の快適性の維持を図る。</p>		

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R6	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A	<p>■職員による日常点検を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速な対応にあたった。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。</p> <p>■令和6年5月で、サンアリーナは開館30周年を迎えるにあたり、正面玄関サインページとホームページ、かわら版にて「開館30周年」の情報発信を行った。</p> <p>■サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、令和6年7月より運用を開始した。ご利用者と暑さ指数の確認の場を設け、場合によっては冷房設備の利用を促し、その対応を記録保管するなど、これまでより一歩進んだ取り組みを行った。</p> <p>■空調設備に次いでエネルギーを消費する照明器具のLED化を行うことにより、エネルギー使用量を削減する省エネ対策を行った。尚、LED化は蛍光灯の製造販売が2027年末と決まったことから、「三重県営サンアリーナ 全館完全LDE化計画」を令和6年度に独自に作成し、計画的に推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階サブアリーナ(観客席含む)・会議棟に設置されている誘導灯23台のうち、蛍光灯使用機器の14台。 ・メインアリーナ、3階回廊ロビー(A,C,E,G)・3階回廊バリアフリートイレ・トイレ前ダウンライト(12箇所)・ペテストリアンデッキ(C,E,G)・倉庫(5室)・機械室(10室)・キャットウォークへの階段(C,G)・非常灯(14台)・非常灯(29球)の照明器具の更新を行った。
2 施設の利用状況	B	B	<p>■新型コロナウイルスも感染症法上の位置付けが5類に移行し、季節性の感染症として定着しつつある中、5つのコンサートや、スポーツ大会も東海大会や全国大会も開催されるなど賑わいが戻ってきた。平均稼働率では、メインアリーナ・サブアリーナが微減となったが、その他会議室は前年を上回り、コロナ禍前と比較しても遜色ない数値となった。</p> <p>■5回のコンサートが開催されたことをはじめ、お伊勢さんマラソンや全日本中学生ソフトテニス大会、伊勢志摩労働者福祉協議会の福祉フェスティバルなど大型のスポーツ大会やイベントも開催された。</p>
3 成果目標及びその実績	C	C	<p>■各スポーツ大会も県域はもちろん、東海大会や全国大会も行われ、コンサート等大規模なイベントもコロナ禍前の水準で実施されるようになって来た。施設の平均稼働率については、前年比メインアリーナで95.0%、サブアリーナで96.6%、その他会議室で101.9%となった。利用人数については、合計で前年比129.1%となったが、目標値の達成には至らなかった。</p> <p>■貸館件数は483件と僅かに目標の500件を下回ったが、自主事業は、「伊勢の森トレイルランニングレース」を実施するなど、35件の自主イベント事業を実施し、30件の目標を達成した(令和5年度実績34件)。</p>

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価

■新型コロナウイルスも感染症法上の位置付けが5類に移行し、季節性の感染症として定着しつつある中、スポーツ大会やコンサート、式典・集会など、多様なイベントが開催され、多くの来館者で賑わった。地域スポーツ振興、文化発信の場としての役割を果たすとともに、猛暑や豪雨といった自然災害への対応にも重点を置いた1年となった。

■年度初めの4月こそ比較的利用が少ない時期であったが、5月に入ると全国高校総体(インターハイ)に向けた三重県高校総体がスタートし、大規模な大会が開催された。特にバドミントン競技では、個人戦・団体戦ともに年間を通して多数の参加者を迎えた。他にも体操・新体操、バスケットボール、バレーボール、剣道、卓球、ソフトテニスなど、幅広い競技で県内大会や東海大会、全国大会などが開催され、多くの学生や社会人アスリートにご利用いただいた。

■コンサートも盛況で、「THE RAMPAGE」「EXILE THE SECOND」「水樹奈々」「UVERworld」「ゆず」といった5組の人気アーティストの公演が開催され、県内外から多くのファンが集い、宿泊先や交通機関など地域経済の活性化にも貢献できた。

■地域に根差したご利用としては、市内幼稚園・こども園の遠足行事(雨天時)や運動会でのご利用が定着し、天候に左右されない屋内施設としての利便性が高く評価されている。県内でも屋内施設での運動会・体育祭が増えてきているとお聞きした。今後は幼稚園・こども園に限らず、小中学校にも利用促進していこうと考えている。また、恒例の伊勢志摩労働者福祉協議会主催の「福祉フェスティバル」や、伊勢市環境会議主催の「伊勢市環境フェア」など地域住民の交流イベントの会場としても活用された。式典集会では、JA伊勢の通常総代会、三重県教職員組合の定期総会、安全運転管理者講習などがサブアリーナで開催され、コロナ禍以降、大型会議室としての利便性が評価され、引き続きご利用いただいている。

■今年度の夏は例年以上に厳しい猛暑となり、熱中症対策の重要性が増した。サンアリーナでは暑さ指数(WBGT)をリアルタイムで測定し、利用者への注意喚起を行いながら貸館業務を実施した。7月から運用を開始したサンアリーナ独自の「熱中症対策手順書」を活用し、重大な事故を未然に防ぐための取り組みを徹底した。加えて、地震や台風などの自然災害への対応も求められた。8月日向灘を震源とする地震発生後、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の発令を受けて、学生合宿のキャンセルが数件発生した。迷走台風による休館も余儀なくされるなど、施設運営にも影響が及んだ。今後も酷暑や自然災害といった諸問題と対峙しながら安全・安心にご利用いただけるよう、取り組んでいく。

■自主事業では、年間35件の事業を実施した。6月にボルダリング施設の活性化を目的として、名張市出身のスポーツクライミング2024シーズンリードW杯日本代表の小林舞さんを招聘し、「ボルダリングクリニック」を開催した。今年ファイナル大会となった「伊勢の森トレイルランニングレース2024 20km FINAL」では、北海道から九州まで750名に参加いただき、大きな事故もなく10回開催をもって終了することができた。このレースは、長年にわたり県内での競技の普及と、スポーツツーリズムの推進に貢献できたと自負している。それに続く自主事業として、11月に「トレイルウォーキングin伊勢」をプレ大会として開催し、令和7年度より本格的に実施する。